

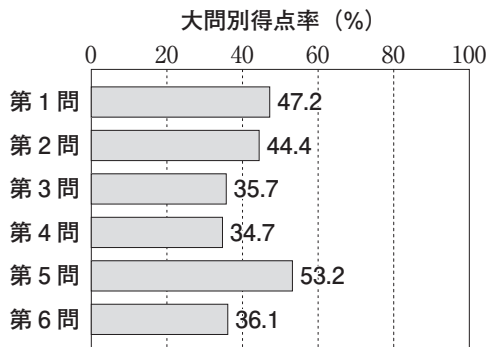
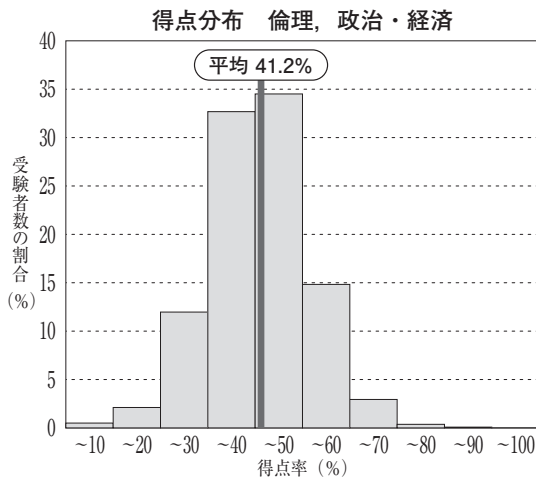
倫理, 政治・経済

まだスタートラインについたばかり。ここから一步一步前進していこう。

I. 全体講評

「第1回2月センター試験本番レベル模試 倫理, 政治・経済」の平均点は、41.2点であった。まだスタートラインについたばかりである。伸びしろが大きいと、前向きに捉えてほしい。東進の「センター試験本番レベル模試」は毎回本番レベルで出題されるので、これを自分の学習状況を測る目安にして、本番まで得点を積み上げていこう。

未修の受験者が多いと考えられる分野については不出来であった。また、これは本番でも言えることだが、倫理分野の8択問題の出来も悪い。本番がこの形式で出題される以上、そのつもりで正確な知識を身に付けていくよう心がける必要がある。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

正確な知識がないと点の取れない8択問題で多くの受験者がつまづいた。

青年期・現代社会分野の得点率は47.2%であった。特に正答率の低かった問題は、問2 [2] と問5 [5] の組合せ問題で、いずれも3割前後の正答率であった。これらは正確な知識が求められる8択問題なので、おのずと正答率が低くなる上、問2 [2] では文学も絡んだので難しかった。ただ、カミュはこれまで何度も出題されているので、知っておくべきだろう。

第2問 源流思想・日本思想分野

8択問題に苦しんだほか、通常型の4択問題でも未修分野では多くの受験者が苦戦した。

得点率は44.4%であった。問3 [8] の8択正誤組合せ問題と、問6 [11] の8択語句組合せ問題の正答率が低かったのは第1問と同じだが、通常の短文4択問題である問4 [9] の正答率も非常に低かった。江戸時代の思想なので、未修の受験者が多かったのであろう。③の選択率が44.1%と非常に高かったが、これは同じ古学派でも古義学の伊藤仁斎である。

第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

ユダヤ教についての8択正誤組合せ問題では、10人に1人しか正答できなかった。

得点率は35.7%と、倫理分野では最も低かった。やはり8択問題で苦戦しており、なかでも問2 [14] は、正答率は11.1%と極めて低かった。ユダヤ教についての設問であり、イの「トーラー」を誤りと判断した受験者が7割近くに上っている。同様に8択問題の問5 [17] も正答率は15.3%と、2割を下回った。

第4問 日本の戦後政治

自分でじかに経験していない政治史については、未修の受験者には難しかった。

大問としての得点率は34.7%と、大問中最も低かった。日本戦後政治史に関わる問3[22]と問5[24]、問7[26]の出来が悪かったのは、受験者の世代的にも当然と思われる。小泉政権についての問7[26]の正答率がわずか4.4%だったのは驚きでもあるが、これが高校生の現状であろう。これから歴史として学習してほしい。問8[27]は民主党政権についての問題であり、リアルタイムでギリギリ知っているところだろう。

第5問 農業問題

おおむねよくできたが、出来事の順番の問われた設問は、正答率が低かった。

得点率は53.2%と、全大問を通して最もよかった。食料自給率についての問4[31]では8割近くの受験者が正答できた。唯一悪かったのは、農産物の自由化に関する出来事の順番について問われた問5[32]であるが、この種の問題は、センター試験本番でも正答率が低い。年代の暗記ではなく、BとCの順序を論理的に説明できるように学習しよう。

第6問 資本主義と社会主義

高校生は社会主義やマルクスについて知らないで、苦戦する受験者が多かった。

大問としての得点率は36.1%であった。高校生世代にとって社会主義は歴史で習うものでしかないので、未修の受験者には難しく感じただろう。正答率が50%を超えた設問は問3[35]だけであった。問1[33]では③の選択率が40%を超えているが、正誤判定ができず、憶測で選んだものと思われる。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆まずは全分野を概観しよう。**

今回、センター試験型の模擬試験を初めて経験した受験者も多かったことだろう。まったく歯が立たなくて、落胆してしまった者もいるかもしれない。しかし、東進の模試は学習進度への配慮も手加減もしていないものであるから、本番並みに得点できないのは、ある意味で当然である。残りの11か月間で着実にレベルアップしていくように、計画的に学

習を進めてほしい。

そのためにまず必要なことは、倫理と政治・経済の全分野をできるだけ早く概観することである。「倫理、政治・経済」という科目は、「倫理」と「政治・経済」の2科目分を網羅的に学習しなければならない。たかが公民と思って後回しにすると、痛い目にあう。理解できなくてもいいので、とにかくそれぞれの教科書を最後まで通読するところから始めよう。おおよそどんなことが主題となっているのかということだけでも把握しておけば、見通しが立つようになってくることだろう。

◆次回の模試に向けて。

ただ、早く概観すべきとはいっても、焦ることはない。まずは自分が学習した範囲について、目標得点が獲得できるようにしてほしい。学んでいない範囲が正答できないということ、学んだ範囲であるにもかかわらず正答できないということでは、意味がまったく違う。

この時期はまだ多くの分野が未修であろうが、これからそうした分野はどんどん少なくなっていくはずなので、回を追うごとに、より高い得点ができるようになってくる。今後の模試も、今回の点数を下回らないよう、毎回少しずつ点数が上がっていくように頑張してほしい。